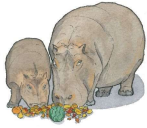


# PTCOG 57に参加して



目で見ると  
海外論文発表

近藤梨加\*

I orally presented the manuscript at  
the Particle Therapy Co-Operative Group of 5<sup>th</sup> Annual Meeting

Key Words : metastatic potential, X-ray, carbon ion beam, proton beam

<参加会議名> 57<sup>th</sup> Annual Conference of the Particle Therapy Co-Operative Group and 5<sup>th</sup> Annual PTCOG-NA Meeting

<開催場所> Cincinnati, OH, US

<渡航期間> 5/23 ~ 5/27

<発表タイトル> Comparison of the effect of X-ray, carbon ion beam and proton beam on metastatic potential

5月23日~5月27日までの5日間、アメリカのオハイオ州シンシナティで行われたPTCOGに参加しました。本学会は最先端の粒子線治療について議論する国際学会であり、臨床、物理、生物のセッションに分かれていました。

今回、私は生物のセッションでX線、炭素イオン線、陽子線のがん転移能に対する影響の違いについて発表しました。初めての国際学会、初めての発表で非常に緊張していましたが、何度もスライドを修正し、練習をするうちに少しずつ自信がつかってきました。

当日の参加登録を終えて、プログラムを改めて確認したところ、当セッションの司会に選出されていることに気がつき、発表の準備に加え、急いで司会の準備も行いました。司会には戸惑いましたが、もう1人の司会の方の支えもあり、司会進行を無事務めることができました。発表に関しては、予想以上の会場の大きさに驚きましたが、あまり緊張はせず

堂々と発表することができたと思います。その反響は大きく、多くの方々に発表中スライドの写真を撮っていただいて、私たちの研究を紹介できる非常に良い機会となりました。発表後に世界の研究者の方々に声をかけていただいて、新しい考えを学ぶこともできました。他の発表で目を引いたものは、アメリカで行われている早期乳がん患者の部分的胸部陽子線治療 partial-breast proton therapy (PBPT) と全胸部 X線治療 whole-breast photon therapy (WBI) の第2相臨床試験の比較結果でした。WBIに比べPBPTの方が、患者の治療後の生活の質 quality of life (QOL) が有意に向上する結果でありました。これには、近い将来、粒子線治療が早期乳がんの治療に貢献するであろうことを確信しました。

初学会、初発表、初司会。今回の学会を通じて、非常に良い経験をさせていただきました。

最後に、本学会発表に海外論文発表奨励賞を賜りました生産技術振興協会と、遂行にあたりご指導頂きました皆巳和賢先生に心より厚く御礼を申し上げます。



写真1 発表の様子



写真2 司会の様子



写真3 会場の入り口



写真4 Ohio river



写真5 Duke Energy Center



\* Rika KONDO

1994年9月生まれ  
大阪大学医学部保健学科放射線技術科学専攻卒業 (2017年)  
現在、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 医用物理学講座 放射線腫瘍学研究室 博士前期課程2年  
TEL : 06-6879-2579  
E-mail : r.kondo@sahs.med.osaka-u.ac.jp